

授業科目	保育内容 健康				単位	1		
履 修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	WE21616J		
開講年次	2	開講時期	後期	該当DP	DP1-2 DP2-1 DP3-2 DP5-2			
担当教員	田中 沙織							
授業概要	養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを踏まえた上で、5 領域における「健康」の観点から、子どもの発達及び保育内容について解説する。また、総合的に保育を展開するための力を養うために、演習を通して学びを深めてもらう。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達について理解している 2. 子どもの健康に関する今日的問題について関心を持ち、自分なりの解決策を検討できる 3. 乳幼児における「健康」の意義を知り、5 領域の中の「健康」の位置づけを理解している 4. 保育内容「健康」における保育者の役割を理解し、保育計画を立てることができる 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	30	40	30	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)			20		10		30	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			10		10		20	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)				20	10		30	
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)				20			20	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の健全な心身の発育について説明することができる。 ・子どもの健康に関する保育内容について項目ごとに正確に説明できる。 ・領域「健康」に関する保育計画をねらいに応じて立てることができる。 ・健康・体力づくりのための運動・体育遊びを発達に応じて実践できる。 ・子どもの健康に関する今日的問題について、保育所保育指針や関連資料を基に解決策を検討できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の健全な心身の発育について理解することができる。 ・子どもの健康に関する保育内容について説明できる。 ・領域「健康」に関する保育計画を立てることができる。 ・健康・体力づくりのための運動・体育遊びを実践できる。 ・子どもの健康に関する今日的問題について、関心を持つことができる。 				
授業計画								

進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	テーマ:オリエンテーション 保育内容「健康」とは(田中沙織) 本講義の進行方法・内容・評価について説明する。保育内容「健康」の意義について解説する。	講義	(予習)保育所保育指針・幼稚園教育要領の「健康」の項を熟読してくる(30分) (復習)授業内容を踏まえ、学期間の授業に取り組む姿勢、自身の到達目標について整理する(60分)	90
2	テーマ:子どもの遊びの支援(田中沙織) 自ら遊びを紹介しながら、運動遊びを行う際の必要な支援と子どもとの関係性について気づく	講義	(予習)教科書の該当箇所を熟読してくる(30分) (復習)授業内容を踏まえ、自分の言葉で整理する(60分)	90
3	テーマ:「健康」の中の養護と教育 (田中沙織) 現代人の生活と健康観の変遷について話し合い、子どもの健康を擁護と教育の視点から考える。	講義 演習	(予習)教科書の該当箇所を熟読してくる(30分) (復習)授業内容を踏まえ、自分の言葉で整理する(60分)	90
4	テーマ:領域「健康」とは (田中沙織) 5領域と其中的「健康」の位置づけ、領域「健康」について解説する。	講義	(予習)教科書・保育所保育指針・幼稚園教育要領の該当箇所を熟読してくる(30分) (復習)授業内容を踏まえ、自分の言葉で整理する(60分)	90
5	テーマ:乳幼児の発達について (田中沙織) 「健康」に関する乳幼児の発達について解説する。 子どもの主体性について考える	講義	(予習)自身の食生活も含め、現代の子どもの食環境について考えてくる(30分) (復習)授業内容を踏まえ、自分の言葉で整理する(60分)	90
6	テーマ:保育所保育指針の中に見る子どもの健康(田中沙織) 現代の子どもと環境を通して行う保育について考え、遊びの中にある学びを理解する。	講義	(予習)身近な自然環境について調べてくるとともに、自身の幼少期の自然環境との違いをまとめてくる(30分) (復習)現代の課題と解決策について考えを整理する(60分)	90
7	テーマ:子どもの運動指導・健康指導 (田中沙織) 子どもの体力・運動能力の今昔や、運動指導、健康指導の実際について解説する。	講義	(予習)教科書の該当箇所を熟読してくる(30分) (復習)授業内容を踏まえ、自分の言葉で整理する(60分)	90
8	テーマ:指導計画 (田中沙織) 「健康」に関する指導計画の立案、書き方、留意点について解説する。	講義 演習	(予習)自身の幼少時の運動遊びを思いだし、簡潔にまとめてくる(30分) (復習)運動指導計画を立案する(60分)	90
9	テーマ:子どもとメディア(田中沙織) 子どもの心身の発達とメディアとの付き合い方について説明する。	講義	(予習)現代の子どもの健康問題について調べ、整理してくる(30分) (復習)健康指導計画を立案する(60分)	90
10	テーマ:生活習慣の獲得(田中沙織) 乳幼児期の生活習慣について、睡眠・運動・食事・睡眠の観点から解説する。	講義 演習	(予習)第8回、第9回の復習で立てた計画をもう一度整理してくる(30分) (復習)授業内容を踏まえ、指導計画の修正を行う(60分)	90

11	テーマ: 保育内容「健康」の実際 1-運動遊び--(田中沙織) 保育現場における「健康」の展開方法について運動遊びに焦点を当て模擬授業を行い互いの省察を行う。	講義 演習	(予習) 模擬授業の発表準備、観察のポイントを確認しておく(30分) (復習) 授業内容を踏まえ、指導計画の修正、振り返りを行う(60分)	90
12	テーマ: 保育内容「健康」の実際 2-生活・健康--(田中沙織) 保育現場における「健康」の展開方法について生活・健康に焦点を当て模擬授業を行い互いの省察を行う。	講義 演習	(予習) 模擬授業の発表準備、観察のポイントを確認しておく(30分) (復習) 授業内容を踏まえ、指導計画の修正、振り返りを行う(60分)	90
13	テーマ: 保育内容「健康」の実際 3-身の回りを整える・災害に備える--(田中沙織) 保育現場における「健康」の展開方法について身辺自立や災害に焦点を当て模擬授業を行い互いの省察を行う。	講義 演習	(予習) 模擬授業の発表準備、観察のポイントを確認しておく(30分) (復習) 授業内容を踏まえ、指導計画の修正、振り返りを行う(60分)	90
14	テーマ: 保育内容「健康」の実際 4-安全・食--(田中沙織) 保育現場における「健康」の展開方法について安全・食に焦点を当て模擬授業を行い互いの省察を行う。	講義 演習	(予習) 模擬授業の発表準備、観察のポイントを確認しておく(30分) (復習) 授業内容を踏まえ、指導計画の修正、振り返りを行う(60分)	90
15	テーマ: 子どもの安全教育(田中沙織) 子どもの心身の発達と子どもへの安全教育と安全管理について説明する。	講義 試験(レポート)	(予習) これまでの授業を基に保育所保育指針・幼稚園教育要領の「健康」の項を熟読してくる(30分) (復習) 授業内容を踏まえ、学期間の授業での学びや課題を明確にする(60分)	90
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				

29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	保育所保育指針や「教育と養護」「領域」について知っておくこと。			
テキスト	井狩 芳子（著）「演習 保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点」（萌文書林）			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	保育所保育指針 幼稚園教育要領			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説や専門書以外にも、身近な私たちの生活の中に、この授業内容を理解するヒントがあふれています。授業内容に対し、疑問や意見を持つことで生活の中でアンテナを広げ、そこで得た情報を、授業の中で表現することで学習内容はさらに深まります。			
達成度評価に関するコメント	<p>レポート 30%、発表 40%、各授業の提出物や課題 30%として配点する。</p> <p>レポートについては、設問の要求に応じた回答と独自性のある考察が含まれていれば満点とし、適宜減点を行う。</p> <p>模擬保育については、指導案 20%、保育実践 20%として、それぞれ保育のねらいに沿った記述および配慮ができていれば満点とする。</p> <p>授業の提出物や課題については、求められているスペースに 3/4 回答し授業内容を反映した考察が行われていることを満点の基準とする。</p>			